

コラトリエ ライティングチェックリスト

	観点	内容	✓
1	提出条件	課題の分量（文字数、ページ数）が守られているか	
2		提出条件（提出期限、提出方法等）が守られているか	
3	体裁	表紙がつけられているか ※複数ページの場合のみ	
4		個人情報（学部学科グループ・学生番号・氏名）が書かれているか	
5		授業情報（授業名、教員名、○曜○時間目）が書かれているか	
6		ページ設定が適切か ※基本的には初期設定（A4サイズ、余白標準）	
7		文字サイズやフォントが統一されているか ※初期設定（文字サイズ10.5、フォント本文明朝体、見出しゴシック体）	
8	本文	段落の始めが1字下げられているか	
9		不要な空白、改行がないか 例×段落間に空行を入れる、節間を2行以上空ける等	
10		用語や英数字（原則半角）の表記が統一されているか	
11		図表の番号が適切か	
12	文献リスト	参考（引用）文献がすべてリストに挙げられているか	
13		脚注、参考（引用）文献リストの書き方が統一されているか ※書式は分野ごとに異なります。該当分野の文献リストを参考にしましょう	
14		インターネット上の文献を参照した場合、閲覧日が記載されているか	
15		参考（引用）文献リストの順（著者名50音順・アルファベット順など）が統一されているか	

※分野によって引用文献と参考文献を分けて書く場合もあります。

【問い合わせ先】

東北学院大学ラーニング・コモンズ「コラトリエ」

土樋キャンパス ホーイ記念館2F

TEL：022-264-6570

MAIL：colatelier-support@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

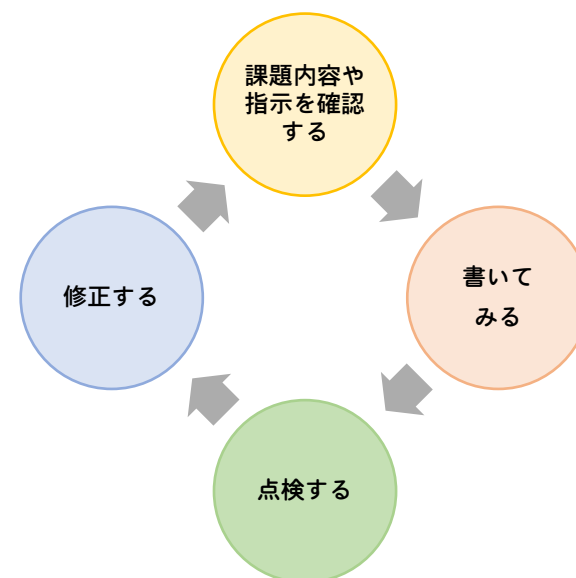


2019年9月発行

レポート・卒業論文を
書くための自己点検ツール

コラトリエ ライティング ループリック&チェックリスト

Ver.2.0



分からないところがある場合や、できているかどうか確認したい場合は、コラトリエの個別相談（月～金の3～5時間目）を利用してみましょう！

コラトリエ ライティンググループブック (Ver.2.0)



観点		すばらしい！	できている (まずはここを目指そう！)	改善するところがある	基本を確認しよう
文章構成	①タイトル	レポートや論文の特色が端的に示されており、読み手を引き付けるタイトルになっている 例○重要なキーワードが含まれている	本文の内容が想像できる具体的なタイトルになっている	抽象度が高いため、より具体的なタイトルにする必要がある 例×「日本経済について」	タイトルがない 本文の内容とタイトルが一致していない
	②序論	レポートや論文の全体像が把握できる序論になっており、そのテーマや問題を取り上げた意義が伝わるものになっている	テーマ背景、問いや目的、本論の予告等、序論に必要な要素がすべて書かれており、つながりがある	序論に必要な要素が欠けている つながりが不十分である 例×背景の記述が不十分、 本論の予告がない、つながりがない	レポートや論文の問いや目的が書かれていない
	③本論	本論がバランスよく構成され、論理的に結論が導かれており、説得力がある本論になっている	本論の構成が論理的に組み立てられている	本論の構成に改善が必要である 例×構成の順序がおかしい 抜けがある、バランスが良くない	思いついたままに書いている 構成が読み取れない
	④結論	本論の内容を踏まえた結論が明確かつ簡潔にまとめられており、レポートや論文の意義や価値が正確に述べられている	レポートや論文の目的、結論（まとめや成果）、今後の課題等、結論に必要な要素がすべて入っている	結論に必要な要素が欠けていたり、不要な文章が入っている 例×本論と関係がないことや決意、感想など	結論がない
文章表現	⑤段落の組立	全ての段落において話題が明確であり、各段落の分量のバランスがよい	各段落において話題（伝えたいこと）が1つに整理されている 例○段落のはじめの一文にその段落の要点やキーワードが含まれている	段落分けは意識されているが、各段落の話題が1つに整理されていない 例×一つの段落が長すぎる 段落の途中で話題が変わっている	段落分けが意識されていない
	⑥読みやすさ	読み手を意識した文章である 例○読み手にない背景の説明 読みやすい読点の位置 後続の内容が予測できる	一文一義の原則が守られており、文と文のつながりが良い 例○接続表現が適切	一文一義の原則が守られているが、文と文のつながりがよくないところがある 例×不適切な逆接、「また」の多用 唐突な文がある	一文一義の原則(1つの文章に1つの事柄を書くこと)が守られていないところがある 例×一文が長すぎる 言葉が重複している等、整理できていない
	⑦表現の適切さ	専門用語や語彙・表現を適切に使い分け、正確に事実や意見が述べられている	レポートや論文にふさわしい表現で述べられている 例○書き言葉 客観的な表現（～と考えられる等）	レポートや論文にふさわしくない表現がある 例×話し言葉、体言止め 主観的な表現（思う、感じる等） 比喩表現、あいまいな表現、略語	文体が「である調」に統一されていない 文法、語彙に誤りがある 例×主語と述語が対応していない 「てにをは」がおかしい、誤字脱字
	⑧図表	効果的に図表を用いて、複雑な情報をわかりやすく伝えている 例○図表で伝えるべき情報と本文で伝えるべき情報を適切に区別できている	適切かつ見やすい図表が作成され、本文から図表が参照できるようになっている 例○文字の大きさや配色、配置が見やすいよう工夫されている	図表が適切に作成されていないところがある 例×行と列が逆 データの単位や表記が不適切 図表番号やタイトルがない 本文から図表番号への参照がない	必要に応じて図表が用いられていない、もしくは図表の種類が不適切なところがある 例×図表が用いられていない グラフの種類が目的に合っていない 不要なグラフや表がある
内容	⑨主張	これまでの先行研究を批判的に検討した上で、具体的な問いが立てられており、自分なりの考えが書けている	問い（目的）と主張（結論）が対応しており、内容が一貫している	問いが明確に示されているが、主張（結論）が問い（目的）に対応していない	問いが不明確である
	⑩根拠 ※論証型	異なる主張について比較、検討されており、限界点を踏まえた上で、自らの主張に対する意義や価値について具体的に考察されている	全体的に適切な根拠に基づいて主張が述べられている	客観的な根拠に基づいて主張が述べられているが、不足/不適切なところがある 例×根拠がない、論理の飛躍、矛盾 過大な主張	全体的に、客観的な根拠に基づいて主張が述べられていない
	⑪結果と考察 ※実証型	結果に基づいて具体的に考察され、限界点を踏まえた上で、結果の意義や価値について具体的に記述されている	結果:データを適切に読み取り、事実に基づいて客観的に結果が述べられている 考察:結果に基づいた考察が述べられている	結果:結果について記述しているが、データの正確な読み取りや主観的な感想が混在している 例×「予想外に多かった」等 考察:結果に基づいていない飛躍した考察がある	結果:データをただ羅列している 考察:結果の提示で終わっており、考察がない
情報	⑫収集	テーマに関する内容を十分に理解し、主張を述べる上で適切な情報が集められている 例○テーマに関する重要な文献 最新の研究、データ	複数の信頼性の高い資料を用いており、テーマに関する情報が十分に調べられている 例○学術論文（◎査読付き） 専門書、公的資料等	テーマに関する情報が十分に調べられていない 例×参考（引用）文献が一つしかない インターネット上の情報しかない	参考（引用）文献がない、もしくは参考（引用）文献として信頼性の低い資料が用いられている 例×Wikipedia、ブログ、まとめサイト、孫引き
	⑬引用	主張を裏付けるために必要な引用が効果的になされている 例○裏付けとして適切な情報が引用されている 不要または意図が読み取れない引用がない 前後の文脈に合わせて引用されている	適切な方法で引用され、引用箇所が明確である 例○直接引用：引用箇所を「」でくくる ブロック引用：行頭字下げ（2～3字分）	引用されているが方法が不適切なところがある 例×間接引用が長すぎる	出典が不明確なところがあり、剽窃（コピペ）が疑われる